

小1 気持ちを考えて劇遊びをしよう

研究主題 想像を広げながら、楽しんで物語を読む力を育てる指導の在り方
ー「おおきなかぶ」の指導を通してー

日立市立成沢小学校 小泉知子

1 はじめに

学習指導要領の改訂では、「思考力・判断力・表現力等の育成」がポイントの1つとなっており、「各教科等においては、国語科で培った能力を基本に言語活動を充実する」ことが必要とされている。つまり、国語科は各教科の学習につながるもので、言語能力を高めることが大きな役割を担っているということである。

物語文ではー①全文を読み、初発の感想を書く。課題を知る。②段落や場面ごとに細かく読む。③第2次感想を書く。ーという指導が一般的であった。ここでは、その単元の流れをー①読む目的意識と見通しをもつ。②ストーリーのおもしろさを見つけて読む③物語を演じる。ーというものに変え、「場面の様子を押さえながら想像を広げながら読むこと」に迫りたいと考えた。そのための言語活動として劇を演じることを選んだ。だんだん小さくなっていく登場人物の順番を捉えたり、繰り返しの言葉とリズムのおもしろさを感じとったりすることで、読む楽しさを感じ、進んで本や文章を読むことができるようにしたいと考え本テーマを設定した。

2 研究の仮説

- (1) 単元の見通しを立て、児童が自ら動作化して劇を行うということで、場面の様子について想像力を広げて意欲的に学ぶことができるであろう。
- (2) 身近なところに本を置いていつでも読める環境を作ったり、シリーズものの読み聞かせをしたりすることで本を読もうとする意欲が向上するであろう。

3 実践事例

1 単元名 気持ちを考えて劇遊びをしよう 「おおきなかぶ」

2 目標

- (1) 場面ごとの様子を想像して声に出して読んだり、動作化して楽しんだりし、進んで話を読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 繰り返しの言葉やリズムを考えながら、登場人物の気持ちを想像して音読することができる。(読むこと)
- (3) 主語・述語の関係やつなぎ言葉の関係を確かめることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「人物の気持ちになって劇をすること」を位置付けた。登場人物が次々に増えていくストーリーの中で、動作化をすることにより気持ちの変化や高まりを感じることができる。その際に、本文にない言葉を自分なりにせりふとして付け足し、劇をすることは「想像を広げながら読むこと」(C読むこと(1)ウ)を実現するためにふさわしい言語活動であると考えた。

4 単元について

(1) 児童観

本学級では、4月からほとんど毎日、大型本を含めた読み聞かせを行ってきた。その時間には、集中してお話の世界に入っていくことができ、聞くことを楽しみにしている。ひらがなの学習を終え、言葉遊びや教科書の音読を通して本に興味をもって自ら本を読もうとするようになってきた。音読の家庭学習に全員がほぼ毎日取り組んでいるが、まだ拾い読みの児童やひらがなを覚えていない児童もいて、「想像したことなどを文章に書くこと」

言語活動例(2)アには個人差が大きい。

初めての物語文「かいが

実態調査(男子17名 女子11名 計28名) 6月9日実施

1	読み聞かせに集中することができる。	できる25名	できない3名
2	話の順番をとらえることができる。	できる25名	できない3名
3	拾い読みでなく文章を読むことができる。	できる23名	できない5名

ら」の学習では、時間の経過を意識して登場人物の気持ちを丁寧に扱って読んできたが、気持ちを想像できるような動作化がほとんど無く、想像を広げることが難しかった。

(2) 教材観

本教材の重点指導事項は、学習指導要領のC「読むこと」(1)ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」である。言語活動は、C(2)ア「本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。」イ「物語を演じること」に対応する。「おきなかぶ」は栽培の喜び、協力し合う喜び、収穫の喜びが味わえ、繰り返しのリズムを音読して楽しむことができる教材である。登場人物が多い割には会話文が少ないが、行動を動作化する劇をすることによって楽しさを味わい、想像を広げながら読むにはふさわしい教材であると考えます。

(3) 指導観

本単元では、人物になりきって場面の動作化をしたり、挿絵を手がかりに吹き出しの言葉を考えたりすることで人物の様子や気持ちを想像するという劇遊びの言語活動を位置づけた。第1次の導入ではグループごとに劇をする見通しをもつことで、意欲を喚起する。

第2次では、かぶを蒔いたとき、かぶが抜けなかったとき、抜けたときの三つの場面大きく分け登場人物のそれぞれの思いを想像していく。そのために動作化して言葉を考えたり、自分の考えを表現することが難しい児童にも課題への取り組みができるように、ペアやグループでの学習を取り入れたりして意見の交換をしていきたい。また、並行読書として引き続き読み聞かせを行い、本の楽しさやおもしろさを味わわせることで、進んで読書しようとする態度を育てていく。

第3次で劇の発表会を行うことで、共感したり、自分の想像とは違った考えがあることを学び合って、想像する楽しさを広げていきたい。

5 単元の目標

- (1) 場面ごとの様子を想像して声に出して読んだり、動作化して楽しんだりし、進んで話を読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 繰り返しの言葉やリズムを考えながら、登場人物の気持ちを想像して音読することができる。(読むこと)
- (3) 主語と述語の関係やつなぎ言葉の関係を確かめることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・繰り返しのおもしろさを感じながら、音読を工夫しようとしている。	・繰り返しのリズムを楽しんで音読している。 ・場面の様子や登場人物の動きを想像して、動作化している。	・誰が何をしたのかを理解している。 ・つなぎ言葉の役割を理解している。

7 指導計画(6時間取り扱い) ○時が本時

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	評価の観点		評 価 規 準 (評価方法)
			関	読 言	
1	1	全文を音読して繰り返しのおもしろさを感じ取り、劇遊びをする見通しをもつ。	◎	○	・登場人物と、話のおもしろいところをとらえ、劇遊びをしようとする意欲をもつことができる。 (音読・発表)
	2	かぶに込めたおじいさんの願いや、大きくなったかぶの様子を想像しながら音読する。		◎	・かぶが大きくなるまでのおじいさんの期待感とできたときの喜びを想像することができる。 (ワークシート・発表)
	3	繰り返しの言葉やつなぎ言葉を	◎	○	・かぶが抜けなくてがっかりしている登場人物

2	④ を手がかりに、かぶが抜けないときの登場人物の行動や気持ちを想像して音読する。 かぶが抜けたときの登場人物の気持ちを想像して音読する。	書 （ 読 み 聞			の行動や気持ちを考えて書いたり、音読したりすることができる。（ワークシート・発表） ・かぶが抜けて喜んでいる様子や、登場人物の気持ちを想像することができる。 （ワークシート・発表）
3	5 劇の発表会に向けてグループごとに発表の仕方を練習したり、アドバイスをし合ったりする。 6 グループごとに劇の発表会をし、互いのよさを話し合う。	か せ ～ ↓	◎	○	・友達のよい点やさらに工夫した方がよい点を伝え合っている。 （観察・アドバイスカード） ・グループごとに協力し合って発表会ができる。 （発表）

8 本時の指導

(1) 目標

- ・かぶが抜けたときの登場人物（おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみ）の行動や気持ちを想像して書いたり、工夫して音読したりすることができる。（読むこと）

(2) 準備・資料

- ・かぶの模型 ・情景図 ・掲示用の本文 ・お面 ・ワークシート

(3) 展開

◎は個に対する指導の手立て

[illegible]

する。

- ・一人で練習する。
- ・ペアで聞き合う。
- ・全体で発表し合う。

5 本時の振り返りをし、次時の予告を聞いて見通しをもつ。

個人
ペア
一斉

る。

- ◎ A 児はひらがながまだよく読めないので、一緒に音読をする。
- ・各自声を出して読んだら、ペアで聞き合うようにする。
- ・かぶを抜く人数が増えたことから、これまでの「うんとこしょ、どっこいしょ」との違いを意識して読むことができるようにする。
- ・いろいろな読み方があってよいことを話す。

(読)工夫して読みたい言葉に印をつけて音読している。(観察・発表)

- ・次時は、劇の練習をすることを伝える。

9 指導の実際

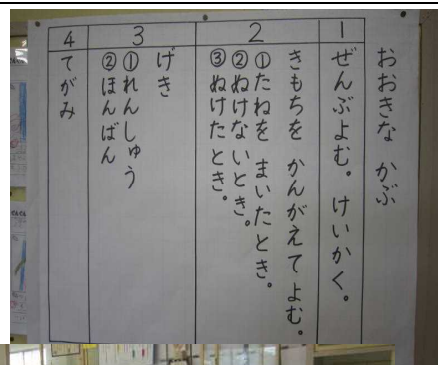
(1) 意欲的な学びのために

単元の初めに、

- ・単元全体の流れを書いた学習計画を提示する。
- ことで見通しをもたせる。自分から学ぼうとする態度を育てることをねらいとした。また、「おおきなかぶ」という題名の通りに大きなかぶの模型を作り、動作化して楽めるようにした。



【かぶの模型】



【単元の流れ掲示】



【グループ練習の様子】

(2) 学び合うために

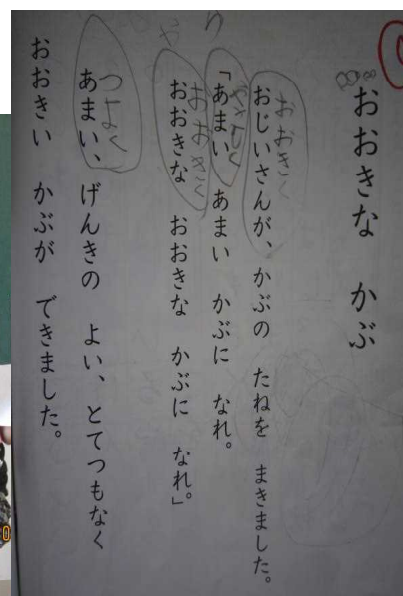
- ①工夫を書き込み一人で読む
 - ②ペアで読み合い、読みの意識を高める
 - ③全体で音読を発表し合い、友達のよさから学ぶ
- といった段階を踏んで学び合いの場を設定した。



【ペアで読む】



【グループで読む】



【教科書への書き込み】

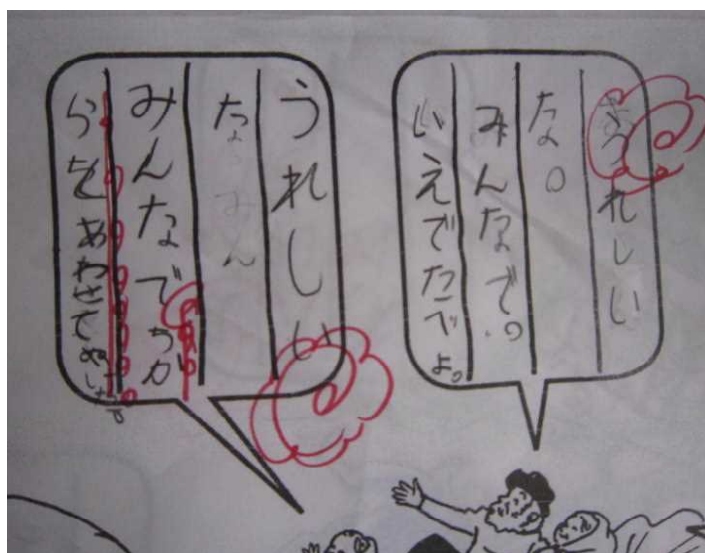
(3) つけたい力に応じた言語活動の選定

具体的な読む能力として、

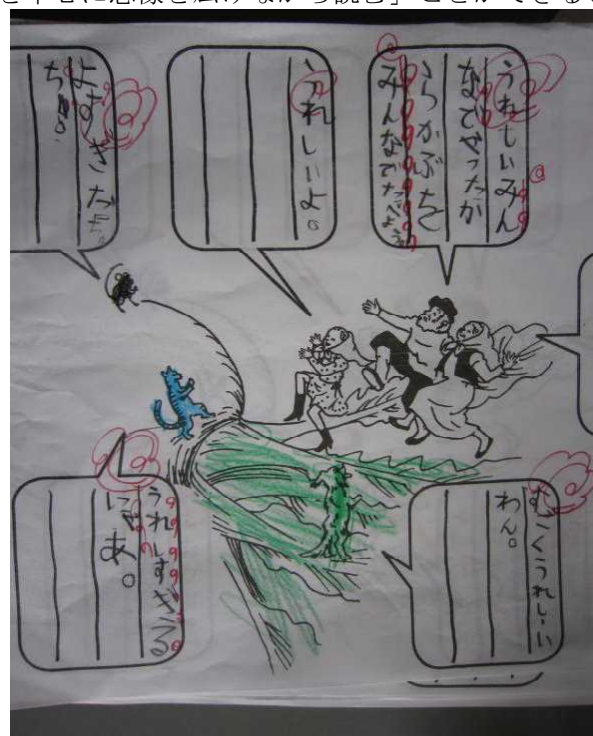
- ・登場人物の行動から場面の様子を想像して読むこと
 - ・登場人物の会話から場面の様子を想像して読むことを考えた。また、第3次に劇を取り入れることにより、
 - ・人物の行動に気をつけて読み、動作化や劇をする
 - ・登場する順番や人物の会話に気をつけてセリフを考えるといった活動
- を通して「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む」ことができると考え、ワークシートに自分なりのセリフを入れ、劇をする言語活動を取り入れた。



【抜けないときの板書】



【ワークシート①】



【ワークシート②】

(4) 「楽しんで読書しようとする態度を育てる」ための環境作り

多賀図書館の配本等を利用して本を借り、教室や廊下など3カ所に置くことで多くの本と出会う機会を増やした。朝の時間には「いいからいいから」「14ひきのねずみ」「ともだちや」「たまごにいちゃん」「10ひきのかえる」などのシリーズものの中から1冊を選んで、毎日読み聞かせをし、児童が本を選ぶときの手がかりになるようにした。シリーズもののほかに、繰り返しの多いもの・民話・おじいさんが出てくるものも用意した。



【友達と大型本を読み合う】



【教室の後ろに置いた本】



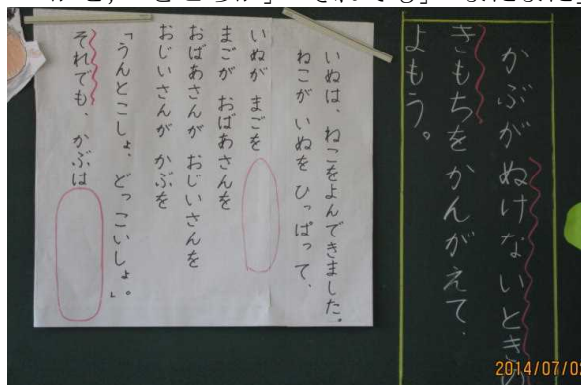
【事務机の上の本】



【廊下に置いた本】

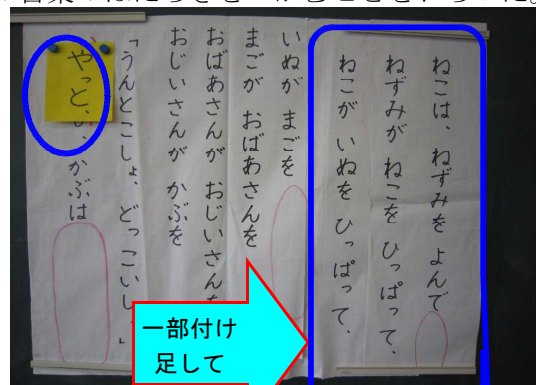
(5) 板書の工夫

かぶが抜けなときと抜けたときで、表現が同じところと違うところを意識させるために、意図的に本文を省略して書いて掲示した。「ひっぱって」は共通した繰り返しの言葉ありで、十分に話の展開をつかんでいいると考えたからである。「ぬけません」が「ぬけました」の表現に変わっていることに気付かせ、「ところが」「それでも」「まだまだ」と「やっと」の言葉のはたらきをつかむことをねらった。



【第2次の3時】

同じ掲示物の上に
重ねて使う



【第2次の4時】

4 研究の結果

(1) 仮説1について

- ・学習の流れを提示することにより、グループで劇をするためには、どんな学習が必要なのかを考え、見通しをたてて自ら学ぼうとする態度につながった。
- ・友達とペアで読み合うことで、お互いのよさを学び、音読の仕方を工夫することができた。
- ・「単元を貫く言語活動」として劇を行う活動を取り入れたことで、本文以外の言葉が必要になってくることに気付き、想像を広げて読むことができた。「劇はいつやるの。」と楽しみにし、意欲的に吹き出しの言葉を書くことができた。発表会の日に欠席者がいた班でも、いない子の分を補って劇をすることができた。
- ・意欲的に音読練習をしたり、友達の音読を何度も聞いたりしたため、拾い読みをする児童が1人になった。

(2) 仮説2について

- ・身近な場所に本を置き、いつでも本を手にとれるようにすることで、梅雨時の外遊びができないときや時間が空いたときに、読書をしようとする態度を育てることができた。ひらがなをまだ全部覚えていない児童や拾い読みの児童も、大型本には興味を示し、友達となかよく読み合うことができた。

5 課題

- ・劇の発表をするときの声が、全体的に小さかった。「きんちょうした。」「恥ずかしかった。」等の反省が聞かれたので、普段から音読の練習をしてしっかり声を出せるようにしていきたい。
 - ・児童が意欲的に学習し、単元のねらいを達成させることができるように発問の工夫をしていきたい。
 - ・1年生の1学期ということで、教科書教材で劇の発表をすることを言語活動に選んだ。2学期も読むことへの意欲を高め、自ら選んだ本を紹介し合う言語活動を取り入れて、読書の幅をさらに広げたい。
- そして、様子や気持ちを想像しながら読むことができるようにしていきたい。

【引用文献・参考図書】

- ・小学校学習指導要領解説 国語編
文部科学省
- ・学習指導要領の解説と展開 国語編
教育出版
- ・言語活動の充実に関する指導事例集
【小学校版】 国立教育政策研究所



【劇の発表の様子】